

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290100365		
法人名	サンキ・ウエルビィ 株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビィ グループホーム秋鹿 (すみれユニット)		
所在地	鳥根県松江市岡本町 1041-1		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果市町村受理日	平成29年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokennsaku.jp/">http://www.kaigokennsaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	鳥根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成29年3月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム秋鹿では企業理念を基に、利用者様や家族様と共に助け合いながら毎日笑顔のある生活を支援しています。常に利用者本位を考え、認知症であってもその人らしく個性豊かな暮らし方をさせていただきたいとの思いで日々のケアに取り組んでいます。利用者様にも役割を持っていただくために食事の用意や掃除洗濯などの家事を手伝っていただいておりますが、皆様とても生き活きとした表情で参加して下さいます。また、毎月の行事では外食や花見、施設内での夏祭りや運動会と年々充実したものになっており、家族様にも協力して頂きながら皆様の笑顔がたくさん見られるようになりました。職員間の雰囲気もとても良く、全員が利用者様のために何をするべきか考え、意見やアイデアを出し合っています。毎月施設内で行われる現任研修では専門的な知識や技術の習得に努め個々がスキルアップし皆様により良いサービスが提供できるように励んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホームの前には一畑電鉄が走り、国道、なぎさ公園栄道湖畔がある。後ろには秋鹿の畑、街並みが広がっている。どの窓からも、のどかで美しい景色があり、自然に癒される場所である。ホーム1Fの小規模多機能センターとの連携、ホーム隣の病院との医療連携もある。開所して6年。職員の大きな入れ替えもなく、地域の人々ともに日々交流して生活を営んでいる様子が窺えた。利用者主体で、家族の気持ちも汲み取り、その方らしい生活を職員全体で話しあい、その方のペースで生活していくスタイルと一緒に考えていく姿勢を感じる事が出来た。ホーム内には写真がたくさん掲示されており、行事での様子や、日々の生活がみられる。又毎月手紙と写真を送り、日々の生活を伝えており、ご家族からの信頼も大きい。食事も職員が調理しており、手伝える利用者は積極的に手伝い、調理をする香りや音の中で家庭的な落ち着いた雰囲気の中でゆっくりと時間が流れていく。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の利用者様の個性を尊重し、その人らしくのんびりと生活して欲しいとの理念を掲げ日々の支援に取り組んでいる。	グループホームの理念以外にも企業理念の6Sを実践し(整理、整頓、掃除、清潔、しつけ、作法)質のナンバーワンを目指すように、会議の中や日々の生活で職員の目標として努力している姿が窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から買い物や食材の発注などは近隣の店舗を利用している。毎日のように買い物に行かれる利用者様もいる。公民館祭りや地域行事に参加したり、施設行事には地域の保育園やボランティアを招き交流を図っている。	地域への買い物や食材の発注は日常的であり、公民館活動の中で関った方々が毎年蕎麦うちで訪問されるようになり、行事として行うようになっている。スタッフが公民館祭りで踊りを披露したり、積極的に地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設管理者が定期的に認知症サポーター研修を行い、地域の人に理解や支援を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の様子報告や事例発表を行い、意見や要望を頂いている。会議での意見をサービスに反映できるよう努めている。	事業所の現状報告、事例検討を行ったり(褥瘡の改善、看取り等)広く意見をもらう機会を作り、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、事業所の取り組みや事例報告に助言を頂いている。介護保険課の方や地域包括支援センターの方に施設内研修の講師を毎年お願いしている。	会議の中で抜き打ちの避難訓練を行ったり、評価や助言をもらう機会を作ったり、積極的に関わりをもつように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加した職員が、施設内で行なわれる現任研修にてフィードバックし共通認識を図っている。また職員同士が注意し合うことで身体拘束に関しての意識を高めている。	研修に参加したスタッフからのフィードバックで共通認識を持つばかりでなく、日々の生活での注意や話し合いも行うように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現任研修にて共通認識を図っている。また普段から職員同士が声を掛け合い、虐待に関しての意識を高め、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現任研修にて職員の共通認識を図っている。現在一名の利用者様が成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に沿って説明を行い、十分に時間をかけて理解納得していただけるよう配慮している。改定等の際には自宅に伺い、説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所独自のご家族様アンケートにて家族様の意見や要望を伺い、運営に反映できるよう努めている。また利用者様本人と家族様に運営推進会議に参加して頂き、要望などを伺っている。	アンケートや運営推進会議の他にも、いつでも利用者、ご家族の意見を聞く姿勢があり、日々のケアの向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、施設長を含めた職員全体でミーティングを行い、職員の意見や提案をチーム全員で共有し、業務に反映できるように努めている。	毎月施設長を含めた職員全体の会議のほかにもそれぞれの部署での会議も行われ、スタッフのヒアリングからも意見を言える機会が多い事が窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個別の評価規定があり、皆が向上心を持って働いている。施設長との個別面談を設けている。労働組合との連携も取れており、職員の意見を聞いてもらう機会もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修への参加の機会を設け、職員のスキルアップに努めている。日々の業務の中でも介護方法の指導などを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松江市のグループホーム部会に参加し、勉強会や情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問などで本人の要望や、今までの生活スタイルを把握し、入居後に安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際、家族様の困りごとや、不安に感じていることを時間をかけて伺い、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の際、現状の確認を行ないながら必要となる支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを大切にし、調理や掃除の手伝いなどをお願いしている。利用者様には毎日の役割を持って頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙で家族様に様子報告を行なっている。面会時には本人様を交え、家族様の思いを聞きながら支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	地元の利用者様が多く、家族様や近所の知り合いの方が面会に来られることも多い。ホールや居室でゆっくりと話ができる場所を提供している。なじみの美容室や商店に行くなどの個別支援も行なっている。	家族や知人の訪問時にはそれぞれの思いを汲んで面会できる場所を提供している。ご利用者の誕生日にご家族が来られた際は、個室でゆっくりできるような配慮もあり、ご家族からも感謝の言葉があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士で日常的に会話が生まれ、関わり合えるようにホールや食事の席などを配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、こちらから積極的に働きかけ、必要時には気軽に相談していただけるよう伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の行動や会話の中で変化に気付きを持ち、一人ひとりの意向や要望を汲み取るようにしている。	御本人らしく、好みに合った事を意識してケアがされている。入居前に不穏で不安だった方がケアを拒否されてもしっかり関って安定するという事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様との会話の中で生活歴や馴染みの暮らし方、大切にしてきた物や事柄などを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや介護記録などを活用し、職員全員が利用者様一人ひとりの現状や変化を把握し共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人様や家族様の意向を伺い、カンファレンスで情報を加えてチームで介護計画を作成するようにしている。また職員全員が担当利用者様のモニタリングを行い、ケアプランの評価を行なっている。	ご本人主体で、ご家族からの聞き取りもふまえ、その人らしい生活の計画を行っている。関る全員のスタッフの意見、モニタリングもしっかり行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や支援経過記録などを活用し、情報を職員全員で共有してケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のその時のニーズに応じ、外出支援や地域行事の参加など柔軟な対応を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館や駐在所と連携をとり、地域行事等に参加できるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様に安心してもらえるよう、希望されるかかりつけ医や病院の受診、往診をしていただいている。個々の状況に合わせて職員が付き添いや送迎の支援を行っている。	希望するかかりつけ医や病院の受診は、個々の状況に合わせて職員も付き添い、送迎の支援が行われており、家族からの感謝の声もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいないため、必要時には1階の小規模多機能センターの看護師に相談し協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、相談協力を行っている。また退院後も相談できるような関係が保てるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応や終末期に向けてターミナルケア指針を作成し家族様に同意を頂いている。重度化した場合にはグループホームでできることを説明し納得していただけるようにしている。職員間で話し合い、意思の統一を図っている。	グループホームでできる事を説明して、納得していただけるようにしている。スタッフ間でも話し合い十分に意思統一され、看取りの貴重な体験も窺う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の訓練を年1回行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署の協力の下、日中帯夜間帯の火災を想定した避難訓練を行なっている。災害時には秋鹿公民館と秋鹿小学校に避難先をお願いをしている。	抜き打ちの避難訓練を行うこともある。振り返りを行い、都度改善している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴などのケアでは羞恥心への配慮を徹底している。プライバシー保護の研修などで理解を深め、本人の人格やプライバシーを尊重したケアを心がけている。	同性介助の入浴支援を基本としている。御本人から考えた支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日や時間は利用者様の希望されるときに実施している。普段の食事にも嗜好や希望を取り入れている。お茶の時間にも飲み物を選んでいただき、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、利用者様一人ひとりの希望やペースに合わせ、その人らしく一日が過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方は本人に任せている。着こなし等を褒めることでおしゃれの意識を持っていただくようにしている。洋服を買いたい、毛染めをしたい等の要望には付き添い支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理、片付けなど一連の過程を利用者様と一緒にしている。本人様の嗜好に合った物を提供するなど、食事の時間を楽しんでいただけるよう心がけている。	食事は外注ではなく職員が作っている、買い物、調理、片づけなど、ご利用者もできる方は積極的に行っている。個人個人の嗜好の把握をし、食事の時間にもぎやかで楽しい時間を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量のチェックを毎回行っている。食事の量や形態は利用者様の状態の変化に合わせ、その都度変更し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、チェックを行っている。自分で出来る方には声かけを行い、出来ない方には介助させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を把握し、必要な方には排泄チェック表を活用して排泄パターンの把握に努めている。少しでも失禁を減らし本人の負担にならないようにさりげなくトイレへの誘導や声かけを行っている。	トイレの誘導にも気をつけてさりげない声かけを行っている。腹筋に力が入るように歌を歌ったりの工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量チェックを行い、水分補給を確実に行うようにしている。また毎日の生活の中で少しでも身体を動かして頂けるよう努めている。下剤が処方されている方は医師の指示の下排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は定めておらず、利用者様の希望や体調を考慮して柔軟に対応している。入浴中はリラックスした雰囲気の中で会話も弾む。また羞恥心にも配慮し、希望される方には同性職員の介助を行っている。	臨機応変な対応を行っており、希望される方には同性スタッフの介助も行い、個人を尊重した支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、一人ひとりの希望や体調を考慮して休憩時間を設けている。また日中の活動量を高め、夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の説明書を個別にファイルし職員全員が把握できるようにしている。毎日の服薬セット時や服薬前にはチェック表を活用し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションにカラオケなどを取り入れ、歌の得意な方には披露して頂いている。お酒を楽しむにしている利用者様にも主治医と相談の上、適量を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に沿った外出に関しては利用者様の希望を取り入れながら、職員が企画し外出支援を行っている。買い物や散歩を希望された時には、その都度付き添いなどの対応をしている。	事業所周辺の散歩や買い物は日常的に行われている。天気の良い日などは、希望に沿った外出支援を心がけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には家族様了承の下お金を自己管理していただき買い物などをされるときには自分で支払いをされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人様や家族様の希望があれば取り次ぐようにしている。また、知人や家族様と、はがきのやり取りが行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、ホールには季節に添った飾り付けを行い、ベランダには時期の花や野菜を植えている。また、くつろぎながら調理の匂いや音を感じていただいている。	窓からは、自然なのどかな景色、共有の空間もちょうどよい明るさと清潔感にあふれている。壁には、季節感あふれる家族からの絵手紙や写真温かい雰囲気があふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは雑誌を見たりトランプをされたり思い思いに過ごしていただいている。また、気の合った利用者様同士が会話しやすいように席の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には思い入れのある物や馴染みのある家具などの持参を勧めている。お気に入りの小物を置いたり、家族や友人との写真を飾ったりして居心地の良い雰囲気を作っている。	居室は広々としており、自宅で使っていた家具や写真、花が飾られている。それぞれの方々の個性に合わせた居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの行動範囲や安全面に留意し、テーブルの配置や動線に配慮している。		